

[総合的な学習の時間]

総合的な学習の時間における郷土を見つめ直す単元構想の工夫

— アメリカ・トルコ・韓国との交流を通して —

五十嵐理恵*

1 主題設定の意図

中央教育審議会(2016)は、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力として「世界とそこにおける我が国を広く相互的な視野で捉えながら、社会の中で自ら問題を発見して解決していくことができる」ことが重要とし、「地域や地球規模の諸課題について、子供一人一人が自らの課題として考え、持続可能な社会づくりにつなげていく力を育んでいくことが求められる」としている。これらは、地球規模で急速に広がるグローバル化や環境問題解決などにおいて必要な力である。

平成29年度新潟県教育委員会の学校教育の重点では、「ふるさとへの愛着と誇りを胸に、粘り強く挑戦し、未来を切り開く、たくましいひとづくり」を実現するために、「ふるさとへの愛着や誇りを育む教育活動の充実」の重要性が説かれている。

小黒(2017)は、総合的な学習の時間における活動で、国際理解教育で得た知識や視点は、生徒が地域を見直す新たな軸となり、地域を積極的に世界に発信していこうとする意欲へとつながったと述べている。さらに、その意欲は地域への愛着のみならず、社会に対する意識や態度が大きく向上したと指摘している。また増田(2017)も、総合的な学習の時間における郷土学習の中に国際理解教育を取り入れることによって、生徒の「社会へ働きかけることができる」という実感をもたせることができたとして述べている。いずれも、地域のよさを見直すためには、視野を地域やその近辺に向けるのではなく、広い視野をもち、別の地域と自分たちの地域を比べるとこによって、地域の良さを再発見できることを示している。総合的な学習の時間での郷土学習の活動に国際理解教育の視点を取り入れたこれらの実践は、中学校での実践であり、小学校での実践はあまりされていない。

そこで本研究では、総合的な学習の時間における海外教育校との交流を通して、郷土や世界に対する児童の思いや様子の変容をまとめ、総合的な学習の時間において世界へ目を向けることの可能性を明らかにしていく。

本校には、校地内に約30本の柿の木があり、特色ある活動として全校児童による縦割り班で柿を育てる柿活動が継続的に行われてきた。地域でも柿栽培が行われ、柿組合が組織されるなど、地域の特産物となっており、児童は柿に対して愛着をもっている。5年生の総合的な学習の時間では、それらの柿を用いて「知ろう・味わおう・自慢の二田の柿」をテーマとし活動を展開してきた。「知ろう」では、農協の方に来ていただき、柿の栽培方法についての話を聞いたり、世界の柿や柿の歴史、種類などを自分たちで調べたりした。「味わおう」では、収穫した柿で料理を行った。活動が進むにつれて、「知ろう」の調べ学習で、「外国にも柿がある」ということが分かった。また、柿はアジアだけでなく、広くヨーロッパでも栽培されていること、さらにシルクロードを通して日本に入ってきたということも知ることもできた。児童は、自分たちの地域の特産物が外国にもあることに驚き、外国の柿について知りたいと関心を強くもつようになった。その関心にもとづき、「伝える」の活動では、海外教育校との交流を行い、特産物の柿や自分たちの活動について発信することになった。発信することによって、地域のことを見つめ、良さを再発見できる。また、他の地域と自分たちの地域を比べることによって改めて地域を見つめ直す機会にもなり、郷土への愛着につながると考え、実践を行うことにした。

2 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

本研究は、海外に伝える活動を通して、児童の活動に対する振り返りや故郷への愛着、さらに異文化理解にどのよう

* 柏崎市立二田小学校

な変容があったかと明らかにしていく。

(2) 研究の方法

総合的な学習の時間における活動の流れ

時期	○活動内容 ・具体的な取組み	◎目指す子どもの姿			
4月～7月	○柿を知ろう ・柿について調べる。 ・柿特ダネ新聞を作る。(世界の柿, 柿の歴史, 柿料理, 柿の育て方など) ・二田の柿について知る。	◎柿栽培に関心をもち, 意欲的に「柿」や人々と関わろうとする子 ◎柿の世話や活用方法について, 進んで調べ, まとめようとする子			
5月～10月	○柿を栽培しよう。 ・農協の柿名人から話を聞く。(写真1) ・栽培する木を決める。 ・木に名前と看板を付ける。 ・草刈り, 樹皮落とし, 肥料まきをする。(写真2) ・徒長子を切る。 ・摘, 摘蕾を行う。				
9月～11月	○柿を活用してみよう。 ・柿を収穫する。渋抜きをする。(写真3) ・収穫した柿を販売する。(写真4) ・販売するための準備を進める。(場所の許可, 看板, ポスター, チラシなど) ・柿を販売する。 ・柿販売の利益で学校に必要な物を買う。				
11月～3月	○これまでの活動を伝えよう。 ・伝える相手を決める。(海外と決定する。) ・伝えるための準備を進める。 ・伝えた後に振り返りを行う。	◎柿に関する活動から分かったことや学んだことを伝える相手を意識して表現する子 ◎柿に関する活動を海外教育校へ伝えることを通して, 故郷の良さを見つめ直す子			
	<table border="1"> <tr> <td> 【アメリカ合衆国】 ・班で何をどのように伝えるかを話し合う。 ・班で伝えたいことを文章にしてまとめる。 ・英語にした文章を練習する。 ・ビデオレターを製作する。 </td> <td> 【トルコ共和国】 ・班で何をどのように伝えるかを話し合う。 ・班で伝えたいことを調べたり, 振り返ったりして文章にしてまとめる。 ・班で練習を重ねる。 ・ビデオレターを製作する。 ・返事をもらい, 次に伝えることを考える。 </td> <td> 【大韓民国】 ・班で何をどのように伝えるかを話し合う。 ・班で伝えたいことを調べたり, 振り返ったりして文章にしてまとめる。 ・班で練習を重ねる。 ・交流会当日にビデオ通話で発表する。 </td> </tr> </table>	【アメリカ合衆国】 ・班で何をどのように伝えるかを話し合う。 ・班で伝えたいことを文章にしてまとめる。 ・英語にした文章を練習する。 ・ビデオレターを製作する。	【トルコ共和国】 ・班で何をどのように伝えるかを話し合う。 ・班で伝えたいことを調べたり, 振り返ったりして文章にしてまとめる。 ・班で練習を重ねる。 ・ビデオレターを製作する。 ・返事をもらい, 次に伝えることを考える。	【大韓民国】 ・班で何をどのように伝えるかを話し合う。 ・班で伝えたいことを調べたり, 振り返ったりして文章にしてまとめる。 ・班で練習を重ねる。 ・交流会当日にビデオ通話で発表する。	
【アメリカ合衆国】 ・班で何をどのように伝えるかを話し合う。 ・班で伝えたいことを文章にしてまとめる。 ・英語にした文章を練習する。 ・ビデオレターを製作する。	【トルコ共和国】 ・班で何をどのように伝えるかを話し合う。 ・班で伝えたいことを調べたり, 振り返ったりして文章にしてまとめる。 ・班で練習を重ねる。 ・ビデオレターを製作する。 ・返事をもらい, 次に伝えることを考える。	【大韓民国】 ・班で何をどのように伝えるかを話し合う。 ・班で伝えたいことを調べたり, 振り返ったりして文章にしてまとめる。 ・班で練習を重ねる。 ・交流会当日にビデオ通話で発表する。			



写真1 柿名人のお話



写真2 草刈りの様子



写真3 柿収穫



写真4 柿販売

(3) 実践

以下の学校との交流を通して本研究を進めた。

交流校	形態	時期	内容	言語
【アメリカ合衆国】 A小学校5年生児童 46名	ビデオレター	1回目送信2016年11月 1回目受信2017年1月 2回目送信2017年3月	1回目 二田地区・学校紹介 2回目 総合的な学習の時間における活動 の活動紹介	英語
【トルコ共和国】 B大学日本語科目を 履修する学生20名	ビデオレター	1回目送信2016年11月 1日目受信2016年11月 2日目送信2016年12月 2回目受信2016年12月 (5年生での活動は、こ こまでだが、児童の希望から 6年生でも続けている。)	1回目 二田地区・学校紹介 2回目 総合的な学習の時間における活動 の紹介	日本語
【大韓民国】 C大学日本語科目を 履修する学生27名	ビデオ通話	2016年12月	総合的な学習の時間における活動 の紹介・質疑応答(写真7・8)	日本語

外国語活動の時間に覚えた英単語や表現を使って、柿について外国の人に伝えたいという児童の意見をもとに、交流相手国をアメリカ合衆国、さらに、日本に近い国での柿の様子を知りたいという思いから大韓民国を交流相手として決定した。また、調べ学習で分かった柿のルーツであるシルクロードと関係のあるトルコ共和国とも交流を行うこととなった。交流相手校については、以下のように選定していただき、紹介された相手と交流を行った。

①アメリカ合衆国A小学校

上越教育大学准教授を介して、アメリカ合衆国テキサス州に依頼をしていただき、A小学校5年生に決定した。

②トルコ共和国・大韓民国について

上越教育大学准教授を介して、上越教育大学の協定校であるB大学とC大学を紹介していただき、日本語での交流が可能な日本語専攻の学生に決定した。

3 研究結果と考察

(1) 実践後の児童の感想文

① アメリカ合衆国

・私たちは、収穫した柿を料理したことを伝えました。柿を食べたことがない人にも伝わるように、味について伝えました。自分たちで作った柿はやっぱりおいしいことも伝えられたと思います。昨年度は、不作で柿を食べることができませんでしたが、今年はお世話を頑張ったので、たくさん収穫して味見もでき伝えることができたのでよかったです。

・柿のことを伝えたいと思いましたが、英語で話すのが大変でした。でもたくさん練習をして、できるようになりました。うれしかったです。私たちの町のことを英語で紹介することができたので、今度はアメリカ以外の国の人にももっと伝えていきたいです。英語で伝えることができたので、少し自信になりました。今回使った英語の表現を今度は、トルコのビデオレターにも使ってみようと思います。

・A小学校の5年生は、自分たちよりも少し年上に見えました。カウボーイの恰好をしてくれたり、ギターで歌を歌ったりしてくれたので、様子がよく分かりました。アメリカの学校でも文化祭があることを初めて知りました。人数が多くて演奏に迫力がありました。学校は一階建てで、びっくりしました。二田小学校のことも知ってもらえたし、相手のことも知ることでよかったです。

② トルコ共和国

・私は、柿の栽培方法について話しました。自分たちの柿の木を決めてペアで柿を育てました。たくさんの実を
実らせるために協力をして徒長枝を切ったり、病気にならないようにペンキを塗ったりしました。そのおかげで今
年はたくさん柿の実を収穫することができました。そのことを伝えるために写真を見せて、話しました。トルコ
の人は、自分たちで果物を育てたことにびっくりしていたし、私たちの活動を「がんばったね。」と言ってくれまし
た。うれしかったです。ペアで協力して育ててきてよかったと思いました。

・私は、柿の収穫について伝えました。皆でがんばって暑期中、800個も柿を収穫したこと、その後全部の柿に洗
抜き用のお酒をつけたことも伝えたいと思いました。返事のビデオで、自分たちで育てて、収穫までしたことをト
ルコの人々がびっくりして、「えらいね。」とほめてくれたことがすごくうれしかったです。みんなもうれしそうで
した。柿を育ててきてよかったです。

・ぼくは、柿販売について話しました。みんなで収穫した柿を3個100円で売ったことや地域の人がたくさん買っ
てくれたことを伝えました。トルコの人々が、「たくさん売れてよかったね。」と言ってくれたし、「食べてみたい」と
も言ってくれました。本当にうれしかったです。みんなで柿販売を成功させることができてよかったです。販売し
たお金で、全校に必要な物を買いました。そこにもびっくりしていて、「えらいね。」とほめてくれました。今
度のビデオレターでは、買った物を見せたいと思います。

・B大学の人がトルコの柿について教えてくれました。私はトルコでは、柿はスーパーに売っているけれど人気
がないということにとっても驚きました。B大学のみなさんも食べたことないそうです。日本では、柿はおいしい果
物なのに、不思議に思いました。おいしいのに人気がないのは、残念です。もっと柿のことを世界のみんなに知っ
てほしいと思いました。

・ぼくは、二田のことを紹介するために、田中角栄について調べました。班でも知らないことがあったので、ふ
るさと公苑にも行きました。田中角栄は、やはりすごい人だということが分かりました。このことをトルコの人に
伝えたいので、顔写真と生まれた家の写真も見せました。伝わりとうれしいです。トルコの有名な人も知りたいで
す。

③ 大韓民国

・私は、二田小学校の柿の歴史について発表しました。歴史について調べると、
前は柿団地がなかったことにびっくりしました。グラウンドが柿の栽培に合っていた
ことを知りました。だから、おいしい柿ができるのだと思いました。調べてよ
かったです。いいグラウンドで育った柿をもっと広めたいと思いました。柿団地が
できた後に誕生した柿のキャラクターについて紹介し、韓国の人にクイズを出しま
した。みんなが参加してくれてうれしかったです。

・私は、新聞にまとめた日本の柿の歴史について発表しました。調べると、柿は
韓国や中国から伝わったことが分かりました。大阪の古墳の中からも柿の種が発見
されていることにびっくりしました。こんなに昔からある柿が二田にあるのはすご
いと思います。だから、韓国との交流をとっても楽しみにしていました。韓国の人に、
韓国から柿が伝わったことを知ってもらえてよかったです。

・韓国の柿について質問をしました。韓国の柿は日本と同じことが分かりました。
渋柿と甘がきがあるそうです。値段は日本よりもとても安いことにびっくりしまし
た。また、たくさん量で売っているそうです。日本は、一個ずつ売っているので、
違うところが面白いと思いました。よくテレビで、外国のスーパーが映っているけ
れど、確かに大量に売られていたので、韓国も同じだと思いました。

・最後に韓国語で歌を歌いました。「感動した。」「韓国語で歌ってくれてありがと
う。」と言ってくれてうれしかったです。家でも韓国語の歌を練習していました。歌
えるようになってよかったです。ぼくは、韓国に行ってみたいという夢ができた
ました。韓国の人たちが日本語がうまくてびっくりしました。たくさんの方が日本語を
勉強してくれていてうれしいです。外国の言葉を話せるようになりたいです。



写真7 C大学とのビデオ通話



写真8 クイズを出す児童

(2) 考察

【自分たちの活動の振り返り 実践後の児童の感想文中下線部】

どの交流においても、児童は伝えるために自分たちの行ってきた活動を丁寧に振り返っていた。さらに、活動に対し、達成感も感じることができた。

アメリカ合衆国との交流は、英語で行った。児童にとって自分たちの伝えたいことを英語で話すことは、大変難しく、練習が必要であった。しかし、自分たちの活動を振り返り伝えたいという強い思いから練習を重ね、話すことができるようになった。児童は活動に対しての満足感を得ていた。

トルコ共和国との交流では、伝えるために自分たちがしてきたことをきちんと振り返ることができた。また、トルコの人からほめてもらったことが児童にとって大変うれしかったようで、ビデオレターの回数を重ねるごとに自分たちのしてきたことに自信をもって伝えていた。さらに、伝えたいという思いも強くもつことができ、内容を分かりやすく構成したり実物を見せたりする工夫を凝らしていた。

大韓民国との交流では、児童は柿の歴史でつながりのあることを伝えようと意欲的に取り組みことができた。歴史でのつながりを伝えることができたことをうれしく思い、さらに調べてよかったという思いをもった。

【故郷への愛着 実践後の児童の感想文中二重下線部】

アメリカ合衆国との交流では、共通語で故郷のことを紹介した経験をもとに、他の国に対しても故郷を紹介をしたいという思いをもつことができた。これは、自分たちの故郷を誇りに思い、一人でも多くの人に知ってもらいたいという願いが込められていると考える。

トルコ共和国との交流では、二田を紹介したことによって、自分たちでは知らなかった新たな一面を知ることができた。その一面も含めて自分たちの故郷を伝えたいという思いへとつながった。

大韓民国との交流では、柿の歴史を知り、大韓民国との関係を見つめ直す機会となった。さらに、昔から柿があることを知り、二田の柿にもっと愛着をもてるようになった。

【異文化への理解 実践後の児童の感想文中波線部】

アメリカ合衆国との交流では、同じ小学生ということもあり、親近感をもっていた。実際のビデオを見る時は自分たちと比べて同じところや違うところを見つけることができた。もっと話がしたいという思いから、英語を話せるようになりたいと強く思い英会話教室に通う子どもが増えた。また、児童は外国語活動の時間に対して意欲的に取り組んだり、ALTと積極的に話したりするようになった。

トルコ共和国との交流では、トルコ共和国での柿の様子を知ることができた。自分たちが大切に育て、おいしいと感じている柿がトルコ共和国では人気がないことを残念に思い、もっと柿のおいしさを伝えていこうという新たな課題を見つけることができた。この思いは、郷土への愛着から自然と出てきたと考えられる。

大韓民国との交流では、ビデオ通話ということもあり、反応がその場ですぐに返ってきた。自分たちの質問に、その場で答えてくれたり、自分たちが考えた柿のクイズにすぐに反応してくれたりした。3つの交流の中で一番相手の人間性に触れることのできた交流であった。実際の大韓民国に行ってみたいという夢をもつこともできた。柿についても、伝わった柿が国の文化により売り方が全く異なることを知り、児童は大変驚いていた。さらに、その気付きを今までの自分の経験と結び付けて理解、納得することができた。

4 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究の成果について研究の目的に即してまとめる。

「児童が総合的な学習の時間における活動を自ら海外に伝えることで、自分たちの活動の振り返りができること」については、海外の人へ伝えるという目標ができてからの児童のまとめ学習に取り組む姿や伝えるために文章を推敲したり班の中で読み合いアドバイスしたりしている姿から、十分手応えを感じることができた。また、児童全員が、「総合的な活動の時間に活動をしてきてよかった。」と述べている。さらに、海外の人たちから、自分たちの活動を称讃してもらったことによって、自分たちの活動に価値があることに気付き、それぞれの自尊感情にいい影響があった。そして、集団としても「よい活動をして、褒められた」という誇りが生まれ、団結力が以前よりも増したように感じる。

「故郷への愛着が育まれること」については、実践を通して、自分たちの故郷を再発見することができたと考えられる。

伝えることが決まってから、意欲的に故郷のことを調べたり、聞いたりして、今まで知らなかったことも知ることができた。「もっと西山が好きになった。」「日本っていいね。」などと述べる児童が多く故郷への愛着を確実に育むことができた。

「他国やそこで生活する人々と触れ合うことで、異文化への理解にもつながること」については、実践後、休み時間に世界の国旗の本を熟読している児童、自主学習で世界の国旗を丁寧にノートに書いてくる児童など児童の興味を海外に向けることができた。さらに、実践の次年度夏には、交流のあったB大学学生2名が日本を訪問し、本校まで来てトルコ共和国の文化についての講義をしてくださった。トルコ共和国について身近に感じることができたと考える。(写真9)また、C大学との交流で大韓民国に興味をもった児童の中には、夏休みに家族とともに大韓民国へ訪問するという夢をかなえた児童もいた。実践が異文化への理解へ、そして視野を世界へ広げることにもつながった。



写真9 来日した学生との交流

(2) 今後の課題

本研究で交流を行ったのは、児童の意見をもとに選んだ3か国であった。海外との交流には、よい機会であったと思われるが、ビデオや画面だと実際生活の様子を伝えることができないことは否めない。今後は日本に住んでいる外国の方との交流を通して理解を深めていくとよりよいと考える。

外国語で交流するには準備や練習に時間を要することや英語に翻訳する壁があり、担任だけでは難しい。ALTや中学校英語担当教員、さらに大学の先生や学生との交流も視野に入れた取組が課題である。

【引用・参考文献】

小黒淳一・橋本勝(2017)「妙高高原の未来を積極的に創造しようとする生徒の育成～国際理解教育の観点から行う故郷発信プロジェクト～」『平成28年度学校支援プロジェクト報告』上越教育大学大学院学校教育研究科教育実践高度化専攻, pp.133-144

中央教育審議会答申：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改訂及び必要な方策等について」, 2016

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf

平成29年度新潟県教育委員会 学校教育の重点

<http://www.pref.niigata.lg.jp/gimukyoiku/1194624921508.html>

原瑞穂(2017)「総合的な学習の時間の地域学習における海外教育機関との交流に関する一考察」『第27回日本国際理解教育学会研究大会』研究発表抄録, pp.149-150

増田有貴(2017)「考えよう！持続可能な社会の実現のために、私たちができること～タイにおける国際協力から佐渡の未来を考える～」『平成28年度教師海外研修報告～国際理解教育の授業実践事例集～』独立行政法人国際協力機構(JICA)東京国際センター, pp.122-127